

画期的であると著者は評している。これは著者が愛知県心身障害者コロニー・こばと学園園長を勤めていたことによる。障害者に対する観察眼は緻密であり、愛情と理解をもった筆の運び方、書き方であって、一読の価値がある。

最後に各十五代の死因として本書があげるところを書く
と次のようになる。家康胃がん、秀忠胃がん、家光脳卒中、家綱未詳、綱吉窒息、家宣インフルエンザ、家継急性肺炎、吉宗再発性脳卒中、家重尿路障害、家治脚気衝心、家斉急性腹症、家慶暑気当たり、家定脚気衝心、慶喜急性肺炎。

現今のように検査技術の発達した時代にあっても死因診断はむづかしい。病理解剖で初めて決定される場合も多い、まして数百年前のことである。わずかな文献の中から、症状に関する情報をかき集めて、それから推理を組み立てようとするのであるから、あたらないことがあっても仕方がない。重点の置き方によって、診断がまったく逆転することもあり得る。同じような作業を行った他の文献と比較してみても、筆者がどの症状に焦点を当てているかを示すもので、興味のあるところであろう。例として服部敏良氏（「江戸時代医学史の研究」）の診断をあげると、家康胃がん、秀忠胃がん、家光脳卒中、綱吉麻疹による心不全、吉宗中風再発、家治水腫病（腎炎あるいは心疾患）、家定と家茂ともに脚気衝心とされるが腎炎または心疾患の疑いとしている。杉浦守邦（「武将の死因」）では家康胃がん、秀忠心筋梗塞、家光胃がん、吉宗前立腺がんとしている。興

味ある方は読み比べて見られてはどうであろうか。

（杉浦 守邦）

〔新潮社、東京都新宿区矢来町七一、B六判、一八八頁、税込価格七一四円〕

編集後記

▼第五十一巻第三号をお届けする。う
ちわけは原著三報、総説一報、資料・
記事・追悼文各一本、例会抄録・書籍紹介各五本、お
よび文献目録となった。本誌は（株）NTTデータシ
ステムサービスに編集協力・印刷を移行後、論文投稿
が比較的順調に推移し、一時の払底が解消された。会
員各位の研究とご協力のたまものと、編集委員の一人
として感謝申上げたい。しかしながら、多数の投稿は、
受理から掲載までの長期化を引き起こしがちで、この
点はなにとぞご容赦いただきたい。▼今号の佐々木論
文は、去る六月、北里大学での第一〇六回大会での会
長招待講演を論文化したもの。編集委員会の判断で、
総説とし、英文要旨も付した。▼第一〇六回大会で、
個人情報保護に関する問題提起があり、今年度中に法
律の専門家を招いた例会が開催される見通しである。
会員各位がこの問題を考える機会となることを、期待
したい。

（町 泉寿郎）